

2021年4月20日記者会見資料

ご挨拶「一般社団法人 防災学術連携体(59学会)の活動開始について」

東日本大震災を契機に、日本学術会議を要として震災に関わる学会が集まる連携活動を始め、2016年1月に自然災害全般を対象にこの活動範囲を広げ「防災学術連携体」を結成しました。自然災害が激甚化するなかで、分野を超えた学会間の情報共有と情報発信、政府・自治体・関係機関との連携など、これまで多くの実績をあげてきました。一方で、設立から5年が経ち、活動が本格化するにつれて、任意団体であることの限界が指摘されるようになりました。そこで、社会的信用を確立し、組織を強化するため「一般社団法人（非営利型）」を取得いたしました。

この法人は「事業活動は幹事会が担い、法人運営は理事会が担う」形を基本にします。2016年の設立以降、幹事会が中心となり、学協会が緩やかなネットワーク組織を結成し、主担当学会が交代制で事務局を担い、事務局支援チームがサポートしてきました。しかし、社団法人には、理事会と固定の事務局が必要であるため、幹事会主体の事業活動はこれまでのように継続させながら、法人運営のために理事会を設け、事務局支援チームを強化して事務局に致しました。日本学術会議と連携して活動することはこれまでと変わりません。

地球温暖化による気象災害の激甚化、首都直下地震や南海トラフ地震などの懸念、新型コロナウイルス感染症の広がりや自然災害との複合化など、難問が山積しています。多くの分野が連携し総合的に活動する必要が高まっており、防災学術連携体の重要性が増しています。今後は、それぞれの自然災害だけでなく、複合災害に備えて、活動を本格化させていく方針です。

一般社団法人防災学術連携体は、初めての総会を2021年4月20日に開催し、一般規則を決定し、役員を選出いたしました。これまでの皆様のご協力に感謝すると同時に、今後の活動へのご協力とご支援をよろしくお願いいたします。

一般社団法人 防災学術連携体

代表理事 和田 章

理事 田村和夫、米田雅子

代表幹事 大友康裕、米田雅子

副代表幹事 森本章倫、目黒公郎

幹事 田村和夫、塚田幸広、永野正行、橋田俊彦、山本佳世子、和田章

事務局長 田村和夫